

平成27年度 福井県立高志高等学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 ・学習指導	a 学力向上のため、日ごろから授業について情報交換や研究を行うとともに、研究会等に参加し、加えて授業公開をさらに活発化させる。	・いずれか1回以上の参加については94.8%となっているものの、「相当する授業の公開、また、自教科および他教科の公開授業の参観について、ともに1回ずつ行う」が、43.1%と、昨年度とほとんど変わらず、改善されていない。	・授業公開の実施および参観を、予習に関する指導について、特に、家庭学習での予習の点検と評価方法など、ポイントを絞って実施し、記録として残し共有できるようにする。
	b 予習を柱とした授業を実施し、学習サイクルを定着させることで、家庭学習との連携を深める。	・すべての教科において、教員の取組は80%を超えるのに対し、週に3日以上予習を行っている生徒は6割程度となり、目標に届いていない。予習の意義についての理解はあるが、実際の取組時間は少ない。	・家庭学習で予習に割り当てられる時間を確保するため、十分に精査したものだけが課題として生徒に渡すよう、課題毎に取り組むのに必要な時間を集約し、整理する。
2 生徒指導	a 基本的な生活習慣の確立を促し、あらゆる教育活動を通して、社会的マナーやルールを遵守する態度を育成する。(社会的マナー・ルール・歩行者としての歩道利用、自転車利用、公共交通機関等の利用におけるマナー・ルール)	・あいさつ・社会的マナー・ルールの遵守についての指導は、98%以上の教職員が「積極的に取り組んだ。」「おおむね指導した。」と答えている。また、生徒については、「きちんとできていた。」「おおむねできていた。」の合計が96%以上であった。 スマートフォン等、携帯端末の使用や使用上のマナー・ルールについて、生徒は「きちんとできていた。」「おおむねできていた。」の合計が約90%であったが、家庭において、使用についてのマナー・ルールについて話し合いやルールづくりは、保護者の評価は57%であった。	・あいさつ・社会的マナー・ルールの遵守についての指導は、日常的に生徒指導部員を中心として教職員全体で継続的に指導し、規範意識を高める活動をより積極的に進める。 スマートフォン等、携帯端末の使用についてのルール・マナーについては、利用に関する研修会の実施や本校HPで公開している「我が家のケータイ・スマートフォンルール 7カ条【モデル】」等を利用して家庭での使用のルール作りを進めていただく。また、PTAの各委員会に依頼して、家庭との連携の在り方の検討をお願いし、家庭での取組を進めていただく。
	b ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事への積極的参加を促し、主体的に行動する力を養い、リーダーとしての人材を育成する。	・ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事への積極的に取り組むことについては、「十分にできた。」「おおむねできた。」の合計が88%と目標(90%)を下回った。 上級学年にふさわしい自らが果たす役割を自覚して行動することについては、「十分にできた。」「おおむねできた。」の合計が81%と目標(90%)を下回った。	・ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事に積極的に取り組むことについては、自主的、実践的に活動できる場や機会を確保し教職員が適切に指導・援助することにより参加を推進する。 上級学年にふさわしい自らが果たす役割を自覚して行動できるについては、質問が抽象的でわかりにくかったかもしれない。学校行事等を通して主体的に行動する意識を持たせたい。
3 進路指導	a 生徒がより高い進路目標を持つことができるように、全体および個別指導を通して職業観の育成を図り、志を高くする進路指導に努める。	・85%の教員が年間3回以上生徒と面談を行ない、昨年度より約4%上昇した。 ・高い進路目標を持っていても、その実現に向けた努力が不足している生徒が57%いた。	・定期的な面談に加え、生徒の状況や変化に対応した面談を実施することで、生徒の内発的な動機付けを図り、自ら主体的に学習に取り組む意欲を醸成する。
	b 新学習指導要領や大学入試問題等の研究と分析から、社会や大学が求める能力と生徒の現状を把握し、生徒の進路目標に応じたきめ細やかな指導に努める。	・各模擬試験、大学入試センター試験の問題を分析した教員は94%、難関大学の入試問題を分析した教員は昨年度より20%上昇し、84%であった。 ・子どもの成績を把握している保護者は80%であった。	・入試問題で求められる力を分析し、指導に生かすために、より深く大学入試センターや個別試験の分析・研究を行う。 ・保護者との連絡を密に、保護者進路研修会などの機会をとおり、スケジュールや進路計画を発信していく。
4 保健管理 ・教育相談	a 定期健康診断の結果から治療指導の徹底を図るとともに、生徒自ら健康管理ができるように啓発する。	・「健康管理が適切に行われている」と答えた保護者の割合は97%と高い。生徒の健康的な生活への取り組みも87%と高く目標を越えるが、1年がやや低い。	・個々の生徒への指導を充実させていくとともに、保健便りなどや生徒保健委員による啓発活動を充実させる。
	b 清掃指導を徹底し、美化意識の向上を図り、環境美化への主体的行動や態度を育む。	・昨年度より目標を高くし、教員が「毎日欠かさず清掃指導する」項目を設定したが、清掃指導の指数は96.7%と高い。生徒の美化への取り組みも89%であった。	・美化委員による自主的な取り組みを促して美化に努める。
	c 中高の連絡を密にして、教員研修や面接指導を通して生徒理解を深め、担任、学年会と連携した教育相談体制を充実する。	・悩みを抱える生徒に対する指導の取り組み指標が95%と高い。相談しやすい環境や取り組みについて、生徒の満足度指数88.2%、保護者の満足度指数89.7%と概ね高いが、相対的にやや低い学年もあった。	・全員で指導する体制の充実を図る。 担任・教科担任・相談室の連携を図り、早期発見・早期対応の態勢を充実させる。

5 海外・ 安全管理	a P T A活動および情報提供を通して、保護者と学校との連携を充実させる。	・教職員の89.1%がP T A総会や学級懇談会に熱心に取り組んだと回答した。しかし、出席者数を80%以上確保できたと回答したのは79.1%で、目標を下回った。 ・「P T Aだより」やP T A活動に関する情報提供に満足している保護者は95.7%であった。編集を担当している総務委員会の方々の御尽力のためである。また、ホームページにおいてもP T A関係行事等をアップしたことも、好結果の要因と考える。	・担任を通じ、出席依頼に努める。また、現在第3学年が実施している、進路保護者研修会など進路に関する行事を1・2年生も併せて実施し、内容の充実にも努める。
	b 進路についての意見交換会を開き、保護者同士が話し合える機会を充実させる。	・進路についての意見交換会や各学年の進路研修会の取り組みについての満足度が、92.1%となり、目標を上回った。	・生徒自身の進路意識を高める必要がある。そして、各家庭にて保護者と進路に関する会話の時間を少しでも多く持っていたるように、進路指導部と連携を図り、ホームページの充実など情報提供に努める。
6 図書指導・ 情報管理	a 各学期1回の朝読書週間、外部講師による図書館講座、書評力を競うビブリオバトルなどの行事や、広報紙等を通して生徒の読書意欲を喚起し、読書量を拡大する。	・図書の広報活動に対する生徒の理解は41.4%で目標の60%を下回った。 ・年間貸出数は、4029冊で、目標3500冊を上回った。	・現在行っている図書館からの広報活動内容の認知度を上げる。 ・生徒が希望する書籍や授業に必要な書籍を多くそろえ、貸し出し数がより増えるようにしていく。
	b 教科「探究科学」「ACE+」「YUI+」「SF探究」等の授業との連携を通して、生徒の情報モラルおよび情報リテラシーを育成する。	・生徒に情報モラルやセキュリティーの意識を高める指導をしている教職員は93.2%、教職員の指導に対する保護者の満足度は93.3%で、ともに目標の90%を上回った。	・「SF探究」での授業や「情報モラル講習会」の実施を通して、生徒の情報モラルやセキュリティーの意識向上に努める。特に、個人情報の取扱いには教職員間で連携し、十分な注意を払う。
	c オープンスクール・学校説明会・ホームページなどを通して積極的に本校の情報を発信し、保護者・小中学生・地域への広報を充実させる。	・所属する校務分掌での広報活動を行った教職員は68.2%で、目標の90%を下回った。 ・オープンスクールや学校説明会の内容に満足している参加者の割合は、それぞれ96%と94.2%でともに目標の90%を上回った。	・広報活動に関するアンケートは、広報担当教職員に限定する。 ・オープンスクールや学校説明会については、参加者や教職員の感想をもとにして改善点の解消に努める。
7 SSH ・SGH ・中高接続	a 大学・研究機関・企業と連携して学校設定科目、教科外活動等を実践することにより、SSH、SGH事業をさらに充実させ、生徒の課題解決能力を高める。	・課題解決に必要な態度や能力を向上させることができたと感じる教員87.1%、態度や能力を高めることができたと感じている生徒が88.8%と目標(80%)を達成できたが、事業の有意性に対しては目標の80%にとどかなかった。	・各事業の意味を丁寧に生徒に説明していくような実施方法を工夫する。
	b 高志中学校における「高志学」の高校での展開、進学型単位制教育課程の研究に取り組む。	・教員の取組は80.8%と目標の70%以上を得られた。	・次年度から実施される2学期制が、単位制へのステップと考え、更なる研究に取り組みたい。
	c 平成28年度に実施する選択型研修旅行の実施に向けて、保護者の理解を得ながら、日程・コース・研修内容等を具体的に計画する。	・保護者の期待は88.9%と目標80%を上回った。	・実施される研修を安全に有意義に行い、一層の理解を深める。
8 理数科	a 理数科・SSHの諸行事を通して、科学技術・理数研究への興味・関心を喚起し、醸成する。	・生徒、保護者からの評価はどちらも、良好であった。特に、保護者の理数科諸行事に対する評価はB以上が100%であった。	・SSHとの連携をより密接にして、来年度以降いっそう充実した行事になるように努める。
	b 数学において予習を前提とした授業をさらに推進し、生徒が問題意識を持ち、自ら学ぼうとする学習スタイルを確立する。	・ノートを利用した予習を行った割合は昨年と比べて落ちているが、予習に取り組んでいないわけではなく、個々の生徒により、予習のスタイルが昨年度より多様化したことが現れた結果になった。	・授業の理解につながる予習のやり方を明確に指示し、予習型の授業をさらに推進していく。